

『産科医療功労者 厚生労働大臣表彰』

橋本 友幸 病院長

トピックス・レポート

TOPICS REPORT

産科医療功労者に選ばれた函館中央病院  
長年にわたり、地域の産科医療に貢献

道南地区のほぼ全ての周産期ハイリスク症例に対応

函館中央病院病院長 橋本 友幸 氏



左から林崎みどり未熟児センター看護師長、木田毅総合周産期センター長(小児科部門)、橋本友幸病院長、片岡宙門総合周産期センター長(産科部門)、藤井真紀周産期センター看護師長

**厚** 生労働大臣が表彰する本年度の産科医療功労者に函館中央病院(函館市本町)が選ばれた。表彰されたのは全国から3団体と個人43人で、団体は同病院と東京都助産師

会、徳島大学病院が受賞した。同賞は長年にわたり地域のお産を支え、産科医療の推進に貢献してきた個人や医療機関等の団体を表彰するため、4年前に創設された。

9月30日には厚生労働省のある中央合同庁舎(東京都千代田区霞が関)で表彰式が行われ、同病院の橋本友幸病院長が団体部門の代表として、村木厚子厚生労働事務次官から表彰状を受

け取った。「表彰式で村木事務次官からは、今回の受賞は産科医療を支えてきたほかの診療科のスタッフなど、病院すべての職員に対するものという挨拶がありました」と橋本病院長は話す。

産科と小児科の連携で母児双方に最良の選択となる医療を目指す

昭和45年から未熟児医療を行ってきた同病院は、道南唯一の総合周産期母子医療センターとして、母体・胎児集中治療管理室(MFICU)を含む産科病棟及び新生児集中治療管理室(NICU)を備えた医療機関である。

24時間365日産科医師・小児科医師が常駐し、道南地区のほぼ全ての周産期ハイリスク症例を取り扱っていて、年間約100件の緊急母体搬送を受け入れている。未熟児センターはNICU9床とGCU(新生児治療回復室)18床を有し、年間180〜200人程度

の入院がある。同センターでは早産低出生体重児や新生児疾患に対応するなど、産科と小児科とが密接に連携を取り、常に母児双方にとって最良の選択となる医療を目指している。

同センターの産科部門は片岡宙門医師、小児科部門は木田毅医師がそれぞれセンター長を担っているが、両医師とも「受け入れは絶対に断らない」をモットーに診療を行ってきた。

「総合周産期母子医療センターは妊娠中でも分娩時でも、お母さんや赤ちゃんに何か問題が起こった場合には産科医や小児科医はもちろんのこと総合病院の機能を生かし、必要に応じて他の診療科とも協力し全力で診療を行う体制によって支えてきました。今回は病院全体が受賞したもので、これからも道南地域の皆さんが安心して妊娠・出産ができるように努めていきます」。